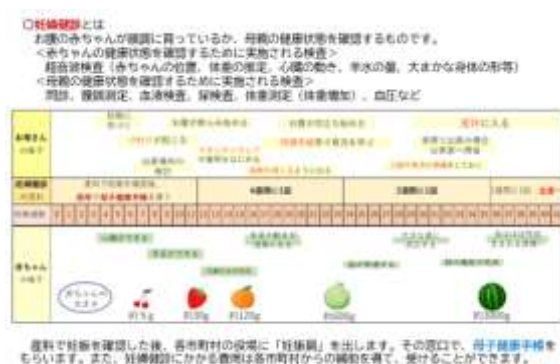


愛知県立半田高等学校1年生の「家庭基礎」の授業で「プレパパ・プレママ教室」を実施しました。半田高等学校は昨年度から実践校として出前授業を行っています。昨年は、Covid-19 感染予防対策における移動制限があり、Zoom を用いた遠隔授業を行いましたが、今年度は、念願かなって対面授業で実施しました。

教科の特徴で2時限分の授業時間の調整が難しいことから、半田高校家庭科 武田先生に前週の家庭科で事前学習の授業をしてもらい、当日はディスカッションや NIPT 模擬検査受検意思決定を中心とした1時限分のプログラムに調整しました。



事前学習資料の一部

2日間の日程で実施するため、2クラス合同授業を4回、計8クラス全員に授業を実施しました。私達も、約80名を対象とした授業は新しいチャレンジとなりました。

また、武田先生と認定遺伝カウンセラーの高尾真未（長崎大学病院）で、模擬遺伝カウンセリングとして、武田先生に妊娠中の経験をお話して頂きました。

事前に学習していた妊娠中の経過をおさらいしながら、NIPTの概要を学習し、ワークブックにそって、NIPT受検の意思決定を模擬体験します。生徒がお腹の子どもの親であるという想定での意思決定です。本来は夫婦でしっかり話し合って、プライバシーが守られた状況での選択ですが、今回は学習のため「何を考えたか」についてグループでディスカッションします。



半田高等学校はSSHに指定されているためか「データをどのように解釈するか」という視点でディスカッションがされており、私達に対する質問も非常に鋭い内容でした。

「陽性的中率、陰性的中率ともに高いけれど、非確定的検査。的中率の高さを信じるのが正しいのか、曖昧な要素がある検査を受けないことが正しいのか。」

高校生が真剣に考える様子に非常に感銘を受けました。示された数値は信頼あるデータ

であるし、非確定的検査であることも事実です。「何を目的に受検するのか」を整理し、夫婦でしっかり検査に向き合ったうえでの意思決定が大切であることが学習できたようでした。羊水検査さらに羊水検査で診断が確定した場合の選択についても学習し、「NIPT を受検すると、次々と難しい選択が続く可能性がある」という意見が聞かれました。

半田高等学校の家庭基礎では、私達が生活する環境や社会資源に対し、当事者意識をもち考えることを学習目標としています。今回の模擬授業でも科目の学習目標を共有した授業ができたと実感しました。



半田高等学校 1 年生の皆さん、武田先生 ありがとうございます。

文責：森藤香奈子